

人は、いつの時代も、歴史のはざまに

学長 中村幸弘

きょう、諸君は、この太平山麓の國學院大學栃木短期大学から巣立って行かれます。いま、ここでの二年間が凝縮されて思い出されていると思います。諸君が本学に入學した、その年は、前

卒業生に贈る言葉



平成二十年の春を迎えた第43期生も、二年間の蛻雪功成って、いよいよご卒業です。おめでとうございます。本学での学びは修了しましたが、さらに大学等に進んで学業を積む方、社会人

理事長・学監 木村好成

生き甲斐ある人生を送るように

期の終講日や後期の開講日が、この一年とは違っていました。そのように、この二年の間でも、この一年は、セメスター制度の導入で、学年暦が変わったのです。人類が生きてきた地球はもとより、宇宙は変化を重ねて現在に至っています。殊に、この数年、世界経済は危機に見舞われて、急激な変革を迫られています。僅か生じた歪みを修正するための緩やかな変改こそが望まれるのですが、そうはいかない時期も、こうしてあるのです。私たちを取り巻くすべてについて極端な格差のない社会を求めて、しかし、今は、その目まぐるしいまでの激変に耐えていかなければなりません。43期生の諸

君は、変化の多い年度生でした。セメスター制だけでなく、韓国の協定大学からの留学生を迎えた初年度でもありました。国内を少しく見ても、裁判員制度の導入、そして、自民党から民主党へという、かつてない政権交代の年でもありました。時代をよく見据えて、本学で学んだ知識や技術をいっそうスキルアップ、キャリアアップしていただく。それ以上に、本学で培った、ものの見方や考え方を実生活に生かしていただく。本学の教職員こそって、43期生諸君が二十一世紀の地球を支える一員として心豊かな人生を送ってくれることを祈念して、ここに卒業をお祝い申し上げます。

住んでいる近辺では、不況で新築中の家を見ることが少なくなりました。それでも土地の開発は進み、青田を渡る爽やかな風や、耳を圧する蛙の声は遠い昔のことになった。点在していた森や林、沼や池は無くなってきた。そんな地域で、昨年の春に大鷹を見た。飛翔する姿は美しく、素晴らしい。巣は少し離れた森にあった。枯れ木を組み上げた巣が、大木の高い枝にあった。その後大鷹を見ることは出来なかつたが、六月に雛の声を聞くことが出来た。巣立ち直前で、高音の鋭い鳴き声だった。巣立ちの決意が伝わってくると思えた。人生の節目に、人は心に決めることがあると思う。決めたことは一様でなくとも、決意は顔色に眼に姿に表れる。その清々しさが伝わる。卒業おめでとう。

巣立つ

教養科目・教授 佐藤圭一



電子辞書を携帯しよう

国文学科長・教授
林 田 孝 和



わたしは昭和三十五年に國學院大學に入学しましたが、そのころ、金田一京助先生がまだご健在でした。金田一先生はアイヌの叙事詩・ユーカラの発見者です。四百名も入る満員の大教室で、初めてお話を拝聴しました。

これをきっかけに、先生のご講演をたびたび聴き、またご著書も読みました。そのなかで『北の人』（角川文庫、昭和三十一年）は忘れがたい一冊です。北海道アイヌのユーカラ解説のために単身樺太に渡られ、樺太アイヌ語の辞書作りまでされたエピソードには、深い感銘を受けました。人間の思考や行動は言語を媒体として認識されるといわれます。言葉を大切にしたいものです。わからない言葉はその場で確認できる電子辞書の携帯を、お勧めします。

進化と退化

家政学科長・教授
北 村 奉 正



筋肉は、鍛えれば発達し、寝たきりになれば衰弱します。進化論的には、人の体が環境に対して必要ならば適応でき、不要ならば退化することを示しています。進化のみでは、体が大きくなり過ぎ、非効率となります。不要なものとは退化させ、進化に備える必要があるからです。

良い環境では、進化する必要がありません。飽食の今、生活が便利になり、体力が不要となったので、次の過程は退化です。現に、児童の体力は低下しています。脳も鍛えないと低下します。腹八分目運動、適度なストレス、暑さ・寒さも必要なのです。卒業生の皆さんは、若いので適応性に優れています。今後も頭を使い、社会から逃げることなく挑戦しましょう。

「学如不及」

初等教育学科長・教授
大 西 秀 彦



今からおよそ千年ほど前、日本で最初に「倭名類聚鈔」という漢和辞典が作られました。その中で、教育を意味する言葉では「教」と「学」の二つの言語が記載されているといえます。しかし、「教」はわずかで「学」が圧倒的に多く使われているということですね。つまり、日本の伝統的な教育観は、教師が「教える」という行為よりも、学習者が「学ぶ」という行為によって成り立っていることを示しているのです。

現在でも職人の技能の伝達には、師匠に「教えて」もらうのではなく、「学ぶ」（語源は「まねる」）ものという考え方が残っているといます。卒業生の皆さんも「自学自習」の気持ちをお忘れず、自分の世界を切り開いてください。

いつも心ときめかせて

日本史学科長・教授
酒 寄 雅 志



二月十九日の新聞に八〇五年、空海が唐からもたらした幻の論文とされてきた「三教不斉論」（さんぎょうふせいろん）を、最澄も唐から持ち帰り、滋賀県大津市の石山寺にその写本が保管されていたことが報じられました。

このニュースに接して、これまで不明であった最澄の中国台州臨海県における求法の一環が明らかになったことに、大いに驚きました。また私自身新たな研究の可能性を見出し、心ときめきました。

二年間、歴史を学んできた皆さんも、在学中、心ときめく歴史との出会いがありましたか。卒業後は、それぞれ異なる道を歩むわけですが、歴史はもとより、色々な面で新たなときめきを求め、心豊かな人生を送ってください。君の前途に幸あらんことを。

アンテナをはって

商学科・教授
秋 山 誠 一



皆さんの短大生活は大きな時代の変化の時とかさなりました。米国ではオバマ大統領が就任し、日本では政権交代が起こりました。

さらにサブプライムローンの焦げつきに端を発する世界金融危機のただなかで、世界景気後退のため、日本経済も輸出産業の業績が急速に悪化し、派遣切りが大きな問題となりました。その中の就職活動は大変だったことでしょう。でも経済は生きもの、悪い時の後には必ず良い時がきます。社会に出ると、日々の仕事に忙しく、つい社会への関心を無くしがちになりますが、時々はこのような世界や日本の動きに目を向けてほしいと思います。就職活動で分かったように、それは自分の運命や生活に関わるのですから。